

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
107-101	高等学校	地理歴史科	世界史探究	
発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教科書名		
81 山川	世探081-901	詳説世界史 改訂版		

1. 編修の基本方針

教育基本法第2条第1号「幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。」に留意した点

- ・「幅広い知識と教養を身に付ける」ことができるよう、各時代・各地域・各分野の事項を幅広く取り上げ、背景や因果関係についても丁寧な記述を心がけた。また、世界史の大きな枠組みや展開を構造的に捉えられるような記述とし、その一助として第Ⅰ部～第Ⅲ部の終わりに「まとめ」を設けた。
- ・「真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培う」ことができるよう、章・節・小見出しごとに「問い」を設けて学習の目的を明確にし、深い理解をうながすとともに、主体的・多面的な考察の一助として様々な図版や文字史料を取り上げた。また、19章の囲み記事「現代世界への視点」では、現代の諸課題の理解やその解決に向けた考察に資する内容を取り上げた。

教育基本法第2条第2号「個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。」に留意した点

- ・「個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養う」ことができるよう、第Ⅰ部～第Ⅲ部冒頭の「第〇部を学ぶ前に」において、諸資料を用いて生徒の興味・関心を喚起し、学習内容を構造的に理解する視点を提示するとともに、生徒が自身で「問い」を立てる課題を設定した。第Ⅳ部「地球世界の課題の探究」では、主体的な探究活動の一例を示した。また、ジェンダーの考え方を取り上げるなどして、多様な個人の在り方への理解が深まるようにも配慮した。
- ・「職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと」ができるよう、「世界史へのまなざし② 日常生活からみる世界の歴史」において、砂糖とコーヒー、余暇、家族を事例に日々の生活と世界史との密接な関わりについて取り上げた。また、第Ⅰ部を通して生業と社会の関係について記述するとともに、産業革命期の労働者とその生活、20世紀以降の女性の権利拡大などについても取り上げ、世界史の流れのなかで職業や勤労について考察できるような記述とした。

教育基本法第2条第3号「正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。」に留意した点

- ・「正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずる」ことができるよう、各時代における様々な個人・集団間の対立および協調、統治や社会参加のあり方、人権・格差の問題とそれへの取り組みなどを記述し、その考察に資する諸資料も取り上げた。
- ・「公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと」ができるよう、19章において、国際連合や非政府組織の活動をはじめとする国際的な協力の重要性、20世紀以降の女性の権利拡大、ジェンダーの考え方なども取り上げた。

教育基本法第2条第4号「生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと。」に留意した点

- ・「生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと」ができるよう、「世界史へのまなざし① 地球環境からみる人類の歴史」において、地球カレンダーを併用するなどして地球や生命の成り立ちを取り上げた。また、気候変動などが人類に与える影響について事例とともに記述し、自然環境の変化に対する問題意識が高まるように留意した。
- ・第4部では、近代化による人口増加や環境問題、核開発や原子力発電をめぐる問題、さらに環境問題に対する国際的な取り組みについて記述し、現代の諸課題に取り組む態度を養えるように留意した。

教育基本法第2条第5号「伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。」に留意した点

- ・「伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する」ことができるよう、各時代における日本と世界の国々との政治・経済・社会・文化面での多様かつ密接な関係や、わが国の伝統・文化が形成された歴史的経緯について、世界史の視点から記述した。
- ・「他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと」ができるよう、各章で集団・国家間の多様な協調のあり方や国際秩序の形成について記述した。また19章では国際連合の活動などを取り上げ、国際社会の平和と発展に向けた諸課題について主体的に考察できるような記述とした。

2. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
世界史を学ぶみなさんへ 世界史へのまなざし① 地球環境からみる人類の歴史 自然環境と人類の進化	*「世界史へのまなざし①」では、地球カレンダーを併用するなどして地球や生命の成り立ちを説明するとともに、自然環境の変化が人類の歴史に及ぼす影響も記述し、環境問題について課題意識を持つことができるようにした（第4号）。	p. 4～7
世界史へのまなざし② 日常生活からみる世界の歴史 砂糖とコーヒーからみる世界の歴史 余暇からみえる現代世界 歴史のなかの家族	*「世界史へのまなざし②」では、砂糖とコーヒー、余暇、家族を事例に日々の生活と世界史との関わりについて取り上げ、我々の生活様式の世界史的な経緯について気付くことができるようにした（第2号）。	p. 8～14

<p>第Ⅰ部 諸地域の歴史的特質の形成</p> <p>第Ⅰ部を学ぶ前に</p> <p>第1章 文明の成立と古代文明の特質</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 文明の誕生 2 古代オリエント文明とその周辺 3 南アジアの古代文明 4 中国の古代文明 5 南北アメリカ文明 <p>第2章 中央ユーラシアと東アジア世界</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 中央ユーラシア——草原とオアシスの世界 2 秦・漢帝国 3 中国の動乱と変容 4 東アジア文化圏の形成 <p>第3章 南アジア世界と東南アジア世界の展開</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 仏教の成立と南アジアの統一国家 2 インド古典文化とヒンドゥー教の定着 3 東南アジア世界の形成と展開 <p>第4章 西アジアと地中海周辺の国家形成</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 イラン諸国家の興亡とイラン文明 2 ギリシア人の都市国家 3 ローマと地中海支配 4 キリスト教の成立と発展 <p>第5章 イスラーム教の成立とヨーロッパ世界の形成</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 イスラーム教とイスラーム政権の成立 2 ヨーロッパ世界の形成 <p>第Ⅰ部まとめ</p>	<p>*「第Ⅰ部を学ぶ前に」で、生徒の興味・関心を喚起するような諸資料を取り上げるとともに、第Ⅰ部の学習内容を構造的に理解する視点を提示した。また、生徒自らが「問い」を立てる課題を設定した(第2号)。</p> <p>*第1章では、まず第1節で文明の誕生を簡潔に記述し、第2節～第5節において各地域の古代文明を並列して記述することで、構造的に学習内容を捉えたり、比較できるようにした(第1号)。</p> <p>*古代オリエント、南アジア、東アジア、南北アメリカ、中央ユーラシア、東南アジア、ヨーロッパの各地域について、風土や生業、その社会などについて簡潔に記述した(第2号)。</p> <p>*第Ⅰ部を通して、政治・経済・社会・文化など広範な内容に関わる文字史料を取り上げて、学習の一助とした(第1号、第3号)。</p> <p>*世界史上での日本と近隣諸国との関わりや文化の伝播について記述した(第5号)。</p> <p>*「第Ⅰ部まとめ」を設け、世界史の枠組みやその展開を構造的に理解する一助とした(第1号)。</p>	<p>p.16～17</p> <p>p.18～36</p> <p>p.20～21、 28、30～31、 35、37～38、 60、91～92</p> <p>p.22、25、 33、39、42、 45、49、57、 70、79、86、 96、101</p> <p>p.33、43、 47、50、56、 65</p> <p>p.102</p>
<p>第Ⅱ部 諸地域の交流・再編</p> <p>第Ⅱ部を学ぶ前に</p> <p>第6章 イスラーム教の伝播と西アジアの動向</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 イスラーム教の諸地域への伝播 2 西アジアのイスラーム諸政権 <p>第7章 ヨーロッパ世界の変容と展開</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 西ヨーロッパの封建社会とその展開 2 東ヨーロッパ世界の展開 3 西ヨーロッパ世界の変容 4 西ヨーロッパの中世文化 <p>第8章 東アジア世界の展開とモンゴル帝国</p>	<p>*「第Ⅱ部を学ぶ前に」で、生徒の興味・関心を喚起するような資料を取り上げるとともに、第Ⅱ部の学習内容を構造的に理解する視点を提示した。また、生徒自らが「問い」を立てる課題を設定した(第2号)。</p> <p>*第Ⅱ部では、ユーラシア大陸の東西にまたがる交易の拡大やネットワークの結合、各地域における火器の使用、ユーラシア大陸と南北アメリカ大陸間でおこなわれた文物の交換などを取り上げることで、グローバルな視点や構造的な視点で世</p>	<p>p.104～105</p> <p>p.106～201</p>

<p>1 アジア諸地域の自立化と宋</p> <p>2 モンゴルの大帝国</p> <p>第9章 大交易・大交流の時代</p> <p>1 アジア交易世界の興隆</p> <p>2 ヨーロッパの海洋進出とアメリカ大陸の変容</p> <p>第10章 アジア諸帝国の繁栄</p> <p>1 オスマン帝国とサファヴィー朝</p> <p>2 ムガル帝国の興隆</p> <p>3 清代の中国と隣接諸地域</p> <p>第11章 近世ヨーロッパ世界の動向</p> <p>1 ルネサンス</p> <p>2 宗教改革</p> <p>3 主権国家体制の成立</p> <p>4 オランダ・イギリス・フランスの台頭</p> <p>5 北欧・東欧の動向</p> <p>6 科学革命と啓蒙思想</p> <p>第Ⅱ部まとめ</p>	<p>界史の展開が捉えられるようにした（第1号）。</p> <p>*第Ⅱ部を通して、政治・経済・社会・文化など広範な内容に関わる文字史料を取り上げて、学習の一助とした（第1号、第3号）。</p> <p>*世界史上での日本と近隣諸国との関わりや文化の伝播について記述した（第5号）。</p> <p>*「第Ⅱ部まとめ」を設け、世界史の枠組みやその展開を構造的に理解する一助とした（第1号）。</p>	<p>p.106、115、129、133、140、147、149、153、160、164、169、181、192</p> <p>p.137～138、140～143、146、150、152～157、172～173、189</p> <p>p.202</p>
<p>第Ⅲ部 諸地域の結合・変容</p> <p>第Ⅲ部を学ぶ前に</p> <p>第12章 産業革命と環大西洋革命</p> <p>1 産業革命</p> <p>2 アメリカ合衆国の独立と発展</p> <p>3 フランス革命とナポレオンの支配</p> <p>4 環大西洋革命とラテンアメリカ諸国の独立</p> <p>第13章 イギリスの優位と欧米国民国家の形成</p> <p>1 ウィーン体制とヨーロッパの政治・社会の変動</p> <p>2 列強体制の動揺とヨーロッパの再編成</p> <p>3 アメリカ合衆国の発展</p> <p>4 19世紀欧米文化の展開と市民文化の繁栄</p> <p>第14章 アジア諸地域の動揺</p> <p>1 西アジア地域の変容</p> <p>2 南アジア・東南アジアの植民地化</p> <p>3 東アジアの激動</p> <p>第15章 帝国主義とアジアの民族運動</p> <p>1 第2次産業革命と帝国主義</p> <p>2 列強の世界再分割と列強体制の二分化</p>	<p>*「第Ⅲ部を学ぶ前に」で、生徒の興味・関心を喚起するような資料を取り上げるとともに、第Ⅲ部の学習内容を構造的に理解する視点を提示した。また、生徒自らが「問い」を立てる課題を設定した（第2号）。</p> <p>*産業革命期の労働者とその生活、20世紀以降の女性の権利拡大などを取り上げることで、世界史の流れのなかで職業や勤労について捉えることができるようにした（第2号）。</p> <p>*第Ⅲ部を通して、政治・経済・社会・文化など広範な内容に関わる文字史料を取り上げて、学習の一助とした（第1号、第3号）。</p> <p>*世界史上での日本と世界各国との関わりについて記述した（第5号）。</p>	<p>p.204～205</p> <p>p.207～208、223～224、258、281～282</p> <p>p.211、213、224、245、252、259、271、283、284、293、299、305、312、318</p> <p>p.237、255～257、271～</p>

<p>3 アジア諸国の変革と民族運動</p> <p>第16章 第一次世界大戦と世界の変容</p> <p>1 第一次世界大戦とロシア革命</p> <p>2 ヴェルサイユ体制下の欧米諸国</p> <p>3 アジア・アフリカ地域の民族運動</p> <p>第17章 第二次世界大戦と新国際秩序の形成</p> <p>1 世界恐慌とヴェルサイユ体制の破壊</p> <p>2 第二次世界大戦</p> <p>3 新国際秩序の形成</p> <p>第Ⅲ部まとめ</p>	<p>*「第Ⅲ部まとめ」を設け、世界史の枠組みやその展開を構造的に理解する一助とした(第1号)。</p>	<p>273、292～ 295、304～ 306、310～ 313、315、 319</p> <p>p.322</p>
<p>第Ⅳ部 地球世界の課題</p> <p>第18章 冷戦と第三世界の台頭</p> <p>1 冷戦の展開</p> <p>2 第三世界の台頭とキューバ危機</p> <p>3 冷戦体制の動揺</p> <p>第19章 冷戦の終結と今日の世界</p> <p>1 産業構造の変容</p> <p>2 冷戦の終結</p> <p>3 今日の世界</p> <p>4 現代文明の諸相</p> <p>地球世界の課題の探究</p>	<p>* 囲み記事「現代世界への視点」で、「現代の政治・社会と宗教——イスラーム主義」「国際連合とその活動」「飢餓とその克服に向けた取り組み」「ジェンダーの考え方と両性の平等化への課題」を取り上げ、現代の課題を考察する一助とした(第1号)。</p> <p>* 両性の平等化の歴史的経緯や、ジェンダーの考え方を取り上げることにより、多様な個人の在り方への理解や人権・格差の問題に対する考察の一助とした(第2号、第3号)。</p> <p>* 人口増加や経済成長による環境問題、核開発や原子力発電をめぐる問題、さらに環境問題に対する国際的な取り組みについて記述し、現代の諸課題に取り組む態度を養えるようにした(第4号)。</p> <p>* 「地球世界の課題の探究」で、主体的に学習内容を探究する活動の一例を示した(第2号)。</p>	<p>p.352、357、 360、363</p> <p>p.362～363</p> <p>p.325、339～ 340、358～ 360</p> <p>p.364～365</p>

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

- ・地図・グラフの作成においては、カラーユニバーサルデザインに則り、色覚特性のある生徒にも読みやすい配色や線種を使用した。
- ・本文やキャプションで使用した文字のフォントについては、文字のかたちがわかりやすく、読み間違いがおこりにくいユニバーサルデザインに対応した「UD書体」を採用した。
- ・より深い学びにつなげるため、インターネット上に教科書ポータルサイトを設け、世界史学習のうえで一般的な用語や、重要年代と事項を確認できる年表、学習に役立つ史料・図版、部ごとのまとめの「問い」および解答例などを参照できるようにした。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
107-101	高等学校	地理歴史科	世界史探究	
発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教科書名		
81 山川	世探081-901	詳説世界史 改訂版		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

A 世界史の大きな枠組みと展開を体系的に学ぶことのできる教科書

●分野・時代・地域のバランスがとれた丁寧な叙述

- ・標準単位数3単位での授業を前提としつつ、現代世界やその諸課題がいかに形成されてきたかを、政治・経済・社会・文化の幅広い分野にわたって、時代・地域もバランスよく記述した。
- ・記述にあたっては、社会的・歴史的な事象がどのように発生したかや、それらの事象を構造的な視点からも理解できるよう、背景や因果関係、さらにその評価について丁寧な記述を心がけた。
- ・日本史との関連について、各時代における日本と世界の国々との政治・経済・社会・文化面での多様かつ密接な関係を記述した。また、火器の使用を一例とすると、織田信長や豊臣秀吉が火器を用いて日本の統一を進めたこと (p.156) を記述するとともに、同時期のヨーロッパ (p.178) ・西アジア (p.162) ・南アジア (p.166) ・東アジアおよび中央ユーラシア (p.169) ・南北アメリカ (p.160) などにおいても火器の使用について記述し、こうした各時代における日本も含めた世界史的な動きについても気付くことができるようにした。

●近年の研究成果にもとづいた叙述

- ・近年の歴史学研究成果にもとづいて記述をおこなった。とくに、騎馬遊牧民と中国王朝とが相互に与えた影響など中央ユーラシアと東アジアとの関係、ルネサンスの位置づけや意義をはじめとする近世・近代のヨーロッパの捉え方、20世紀を通じた諸事象のグローバルなつながりなどに、近年の研究の知見を多く盛りこんだ。
- ・第IV部では、環境問題や気候変動への取り組み、グローバル化とそれにもなう経済や格差の問題、国際連合や非政府組織をはじめとする国際的な活動・協力の重要性、両性の平等化への取り組みやジェンダーの考え方の登場など、近年の動きや研究成果も踏まえて、広く現代世界とその諸課題について記述した。さらに、囲み記事「現代世界への視点」を設け、「現代の政治・社会と宗教——イスラーム主義」 (p.352) 、「国際連合とその活動」 (p.357) 、「飢餓とその克服に向けた取り組み」 (p.360) 、「ジェンダーの考え方と両性の平等化への課題」 (p.363) など、諸課題の理解やその解決に向けた考察に資する内容を取り上げた。

●豊富な図版・文字史料、教科書ポータルサイトの設置

- ・歴史的な見方・考え方を多面的に深める一助として、約 600 点の図版や、約 100 点の図表・文字史料を掲載した。
- ・また、日々の学習の補助やさらなる探究活動を想定して教科書ポータルサイトを設置し、世界史学習のうえで一般的な用語や、重要年代と事項を確認できる年表、学習に役立つ史料・図版、部ごとのまとめの「問い」および解答例などを参照できるようにした。

B 主体的・対話的で深い学びをめざして

●「問い」の設置

- ・本書の章・節・小見出しごとに「問い」を全面的に設け、学習目的を明確にするとともに、主体的・対話的で深い学びを実現するための一助とした。

●「第〇部を学ぶ前に」

- ・第Ⅰ部～第Ⅲ部の冒頭に「第〇部を学ぶ前に」（p.16～17、104～105、204～205）を設け、諸資料を用いて生徒の興味・関心を喚起するとともに、学習内容を構造的に理解・考察するための視点を提示した。また、生徒自らが「問い」を立てる課題も設定した。

●「まとめ」と「地球世界の課題の探究」

- ・第Ⅰ部～第Ⅲ部の終わりに「まとめ」（p.102、202、322）、ならびに付属する問いを設け、世界史の大きな枠組みやその展開を構造的に理解するための一助とした。
- ・第Ⅳ部「地球世界の課題の探究」（p.364～365）では、不戦条約を取り上げて、主体的に学習内容を探究する活動の一例を示した。

C 学習にあたっての配慮

- ・「自由主義」「保守主義」「ナショナリズム」「権威主義」などの概念的な用語には、できうるかぎり側注で解説を加えた。
- ・同時代・同地域の関連をわかりやすくしたり、学習内容の予習・復習に資するため、参照頁を丁寧に入れることを心がけた。
- ・地図・グラフの作成においては、カラーユニバーサルデザインに則り、色覚特性のある生徒にも読みやすい配色や線種を使用した。
- ・本文やキャプションで使用した文字のフォントについては、文字のかたちがわかりやすく、読み間違いがおこりにくいユニバーサルデザインに対応した「UD書体」を採用した。

2. 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当 時数
世界史を学ぶみなさんへ			
世界史へのまなざし① 地球環境からみる人類の歴史 自然環境と人類の進化	A 世界史へのまなざし (1) 地球環境から見る人類の歴史	p.4～7	1
世界史へのまなざし② 日常生活からみる世界の歴史 砂糖とコーヒーからみる世界の歴史 余暇からみえる現代世界 歴史のなかの家族	(2) 日常生活から見る世界の歴史	p.8～14	1
第Ⅰ部 諸地域の歴史的特質の形成	B 諸地域の歴史的特質の形成	p.15	
第Ⅰ部を学ぶ前に	(1) 諸地域の歴史的特質への問い	p.16～17	1
第1章 文明の成立と古代文明の特質	(2) 古代文明の歴史的特質	p.18～36	4
1 文明の誕生			
2 古代オリエント文明とその周辺			
3 南アジアの古代文明			
4 中国の古代文明			
5 南北アメリカ文明			
第2章 中央ユーラシアと東アジア世界	(3) 諸地域の歴史的特質	p.37～102	5
1 中央ユーラシア——草原とオアシスの世界			
2 秦・漢帝国			
3 中国の動乱と変容			
4 東アジア文化圏の形成			
第3章 南アジア世界と東南アジア世界の展開			3
1 仏教の成立と南アジアの統一国家			
2 インド古典文化とヒンドゥー教の定着			
3 東南アジア世界の形成と展開			
第4章 西アジアと地中海周辺の国家形成			6
1 イラン諸国家の興亡とイラン文明			
2 ギリシア人の都市国家			
3 ローマと地中海支配			
4 キリスト教の成立と発展			
第5章 イスラーム教の成立とヨーロッパ世界の形成			4
1 イスラーム教の成立とイスラーム政権の成立			
2 ヨーロッパ世界の形成			
第Ⅰ部まとめ			

第Ⅱ部 諸地域の交流・再編	C 諸地域の交流・再編	p.103	
第Ⅱ部を学ぶ前に	(1) 諸地域の交流・再編への問い	p.104～105	1
第6章 イスラーム教の伝播と西アジアの動向	(2) 結び付くユーラシアと諸地域	p.106～161	3
1 イスラーム教の諸地域への伝播			
2 西アジアのイスラーム諸政権			
第7章 ヨーロッパ世界の変容と展開			6
1 西ヨーロッパの封建社会とその展開			
2 東ヨーロッパ世界の展開			
3 西ヨーロッパ世界の変容			
4 ヨーロッパの中世文化			
第8章 東アジア世界の展開とモンゴル帝国			3
1 アジア諸地域の自立化と宋			
2 モンゴルの大帝国			
第9章 大交易・大交流の時代			4
1 アジア交易世界の興隆			
2 ヨーロッパの海洋進出とアメリカ大陸の変容			
第10章 アジア諸帝国の繁栄	(3) アジア諸地域とヨーロッパの再編	p.162～202	3
1 オスマン帝国とサファヴィー朝			
2 ムガル帝国の興隆			
3 清代の中国と隣接諸地域			
第11章 近世ヨーロッパ世界の動向			7
1 ルネサンス			
2 宗教改革			
3 主権国家体制の成立			
4 オランダ・イギリス・フランスの台頭			
5 北欧・東欧の動向			
6 科学革命と啓蒙思想			
第Ⅱ部まとめ			
第Ⅲ部 諸地域の結合・変容	D 諸地域の結合・変容	p.203	
第Ⅲ部を学ぶ前に	(1) 諸地域の結合・変容への問い	p.204～205	1
第12章 産業革命と環大西洋革命	(2) 世界市場の形成と諸地域の結合	p.206～257	5
1 産業革命			
2 アメリカ合衆国の独立と発展			
3 フランス革命とナポレオンの支配			
4 環大西洋革命とラテンアメリカ諸国の独立			
第13章 イギリスの優位と欧米国民国家の形成			7
1 ウィーン体制とヨーロッパの政治・社会の変動			
2 列強体制の動揺とヨーロッパの再編成			

3 アメリカ合衆国の発展			
4 19世紀欧米文化の展開と市民文化の繁栄			
第14章 アジア諸地域の動揺			5
1 西アジア地域の変容			
2 南アジア・東南アジアの植民地化			
3 東アジアの激動			
第15章 帝国主義とアジアの民族運動	(3) 帝国主義とナショナリズムの高揚	p.258～299	7
1 第2次産業革命と帝国主義			
2 列強の世界再分割と列強体制の二分化			
3 アジア諸国の変革と民族運動			
第16章 第一次世界大戦と世界の変容			6
1 第一次世界大戦とロシア革命			
2 ヴェルサイユ体制下の欧米諸国			
3 アジア・アフリカ地域の民族運動			
第17章 第二次世界大戦と新国際秩序の形成	(4) 第二次世界大戦と諸地域の変容	p.300～322	7
1 世界恐慌とヴェルサイユ体制の破壊			
2 第二次世界大戦			
3 新国際秩序の形成			
第Ⅲ部まとめ			
第Ⅳ部 地球世界の課題	E 地球世界の課題	p.323	
第18章 冷戦と第三世界の台頭	(1) 国際機構の形成と平和への模索	p.324～357	4
1 冷戦の展開	(2) 経済のグローバル化と格差の是正		
2 第三世界の台頭とキューバ危機			
3 冷戦体制の動揺			
第19章 冷戦の終結と今日の世界			7
1 産業構造の変容	(3) 科学技術の高度化と知識基盤社会	p.358～363	
2 冷戦の終結	(4) 地球世界の課題の探究	p.364	2
3 今日の世界		予備	2
4 現代文明の諸相			
地球世界の課題の探究			
		合計	105